朝日岳信仰 川口寺・岩上寺跡地 発見!

川口寺跡

●調べた地図上の祭祀線の円を、消さずにいくつも重ねていたら寺泉地区の野川のほとりに交差する場所が見つかった。もしかしたら五所神社が伝える川口寺ではないかとピンときた。五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳 8 年（7 世紀末）、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に役行者が開山し、その後、聖武天皇の治世、天平 3 年（731 年）、川口寺が建立され、宝亀 5 年（774 年）桑沢口に岩上寺が建立され繁栄し、その繁栄は約 400 年続いたとある。さっそく調べてみた。

※川口寺跡については別頁「道真公の無念を晴らす朝日嶽修験 祝瓶山」からの転載です。祝瓶山に関わる全体の祭祀線についてはそちらをご覧ください。

■五所神社（伝わる朝日岳信仰の由来）

由緒

五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳 8 年（7 世紀末）、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に**役行者が参籠修行し開山**したという。その後、聖武天皇の治世、天平 3 年（731 年）、川口寺が建立され、宝亀 5 年（774 年）桑沢口に岩上寺が建立され繁栄し、その繁栄は約 400 年続いた。天喜年間（1053 年 - 1058 年）、前九年の役（源義家と、安倍貞任の兵乱）により朝日、岩上の霊地は衰退の一途をたどっていた。

その後、再び出羽国を訪れた源義家は、寛治 4 年（1090 年）当麻秀則を遣わし、祭地青木野に朝日岳大日霊貴命・月ヶ峰月読命・岩上別雷神・小朝日金山彦命・三渕建御名方命の五ヶ所の尊霊を移し合祭したのが朝日山五所大明神である。この時から地名も五祭所と改められ、一郷の産土氏神として奉斎し、当麻秀則に永く留まらせ、祠を守らせたとある。

伝承

五所神社には三渕（みふち）の神が祀られている。『卯の花姫伝説』では、前九年の役で敗れた悲運の武将、**安倍貞任**の娘、卯の花姫が三渕の滝に身を投げ、龍神となって祀られたものといわれている。 長井市では約 40 の神社において勇壮な黒獅子祭が行われている。 寺泉五所神社の黒獅子祭の時には、この龍神が雨を降らせ、最上川支流の野川を、波飛沫をあげて下ってくるといわれる。 その姿を演じたものが黒獅子舞といわれ、伝承のごとく黒獅子舞の 10 メートルもの大幕には水流の激しさを表す水玉の波飛沫と波模様が染め描かれている。

修験

東北地方では神社の祭祀に修験者が関わってきた例が多く見られ、五所神社も古くから代々、修験東性院が別当として祭祀に関わってきた。 羽黒派十二先達の一である東性院は天長年間（824 年 - 834 年）に寺泉村の道者屋敷に、朝日山別当の岩上寺を開いた宥善法師を開基とし、明治初年の神仏判然令の影

響下、明治 3 年（1870 年）に復飾し神主となった永恭まで、46 代にわたって相続してきたと伝えられている。中世、朝日岳を中心に朝日修験が盛んであったが、羽黒修験との勢力争いに敗れ、衰退したと思われる。 鎌倉時代、朝日山地周辺には、平氏の残党などが山伏となり、横暴を極めたので、北条氏が千年封じを実施したとの伝説がある。その際に、僧坊を破毀、仏像を川に投棄するなどの弾圧により朝日山地の信仰は衰え、朝日修験の勢力も弱体化したと言われている。 東性院も、朝日山五所大明神の別当を代々務めてきていたことから、当初は朝日修験であったものが、時代を下るなかで羽黒修験となったものと考えられる。　　※ウィキペディア「五所神社」より抜粋

●五所神社由緒とほぼ同じ内容の「朝日岳岩上山由来記」もある。

大朝日岳・祝瓶山・遍照寺

円周ラインがここで交差

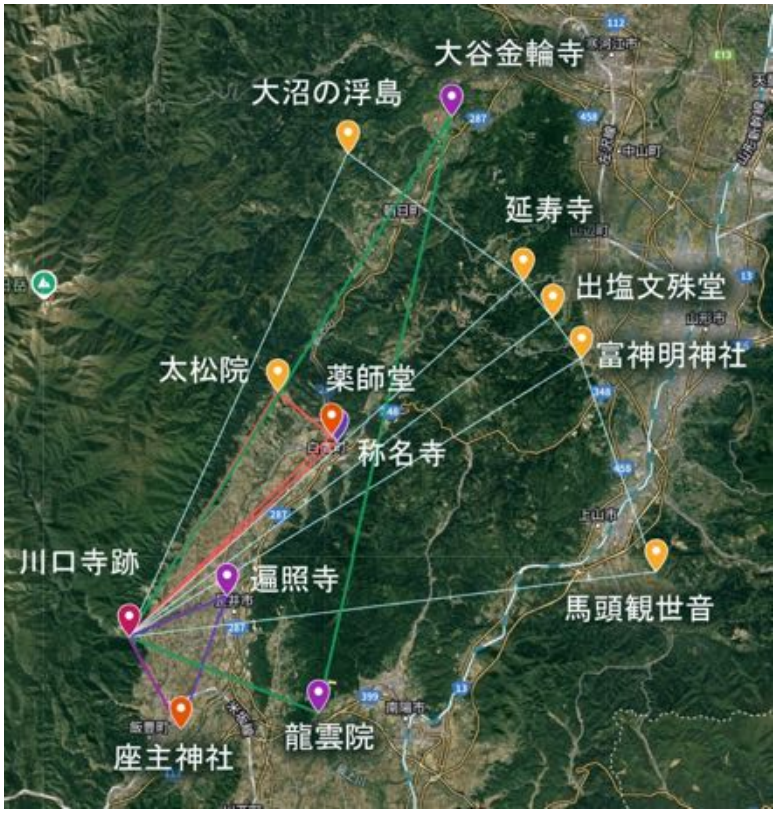
■五所神社 →→14.142km→→→ 祝瓶山 →→→ 14.142km→→ **川口寺跡地**
■遍照寺 →→18.977km→→→ 大朝日岳→→→ 18.977km→→ **川口寺跡地**

■大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳 8 年（7 世紀末）、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に**役行者が参籠修行し開山**したという。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初顕神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼（1246～56）によっ

て千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。
備考/朝日と名のつく場所は、太陽信仰の古代出雲族が朝日を遥拝した場所とされている。

●祭祀線が探せなかった五所神社と遍照寺に見事につながった！　そして祝瓶山と大朝日岳にも。
行基が遍照寺を開基したのは 8 世紀中頃。川口寺が建立されたのは宝亀 5 年（774 年）。川口寺は遍照寺とつながる位置に。五所神社は川口寺と繋がる位置に建立された。理想的な祭祀線が見えてきた。もし本当にここが川口寺跡なら、ほかにも祭祀線は見つかるはず。さらなる信憑性を求めて調べてみた。
すると…



■遍照寺　→→5.769km→→→ 川口寺跡地 →→→ 5.769km→→ 座主神社

■座主神社
祭神：座主権現
座主神社は下椿地区で「御座主様」とよばれ、土地を守る神様として祭られています。かつて地元の有力者である梅津家の屋敷に祭られていた氏神を、天文 2 年(1533)に現在の場所へ移築したものです。この獅子頭は涌沼神社の獅子頭と兄弟獅子であるといわれています。そして戦時中でも例祭の奉納獅子舞を絶やすことなく行ってきた神社です。

●すぐ近くに大屋根のお宅にも同距離ラインが通っている。ここが移築前の有力者の梅津家ではないだろうか。同じライン上に移動したのだと思う。

称名寺

■太松院 →→15.605km→→→ **川口寺推定地** →→→ 15.605km→→ 称名寺
→→→ 15.605km→→ 薬師堂

■称名寺

称名寺は案内板によると「当地方第一の古刹、奈良時代は「法相宗」であったが３５代６３０年の後、法相真言兼学となり、後「真言宗」となった。特にキリシタン宗門の起請文と十字架、郷目の三幅一対、宝篋印塔、板碑等は、考古資料として注目されている。」とあります。称名寺の創建は**天平１８年（７４６）、奈良時代の高僧である行基菩薩によって開かれたのが始まり**とされます。伝承によると行基菩薩は十王像を笈で背負って来たとされ、その故事が転じて地名の「十王」が起こったと伝えられています。当初は法相宗の寺院でしたが、永和元年（１３７５）に高野山（和歌山県伊都郡高野町：真言宗総本山）の僧、我光和尚により真言宗兼学となっています。（山形県の町並みと歴史建築サイトより抜粋）
西置賜郡白鷹町十王３５２７

■薬師堂　詳細不明　2024 年に道路拡幅工事で 10m 東に移動。

■太松院　詳細不明　曹洞宗　白鷹町大字深山字西向 4110

■大沼の浮島（弁天島）→→28.984km→→ **川口寺推定地** →→→ 28.984km→→ 延寿寺
→→→ 28.984km→→ 出塩文殊堂
→→→ 28.984km→→ 富神明神社
→→→ 28.984km→→ 馬頭観音堂

■延壽寺

法華経と黒滝不動明王への信奉により明治三十三年に開山。当山二世・秋葉栄山の母タヨが夢告によって滝平地区の三階滝付近を探索したところ、滝壷の底に黒滝不動尊の姿をみたという。当時、同地区では火災業病が絶えず、この折伏を願って法華経を奉じ、不動尊を祀ると火難は収まり、以降、地元を中心に熱烈な信仰が広まった。昭和五十八年本堂、庫裡を新築。また、奥の院と三階滝の不動尊の社では、滝祭りの行事を現在も厳修している。山形市滝平 832-2

■出塩文殊堂

出塩文殊堂は出塩の文珠山中にあります。本尊は大聖文殊（文殊菩薩）、祭日は 7 月 25 日（旧暦 6 月 25 日）。もとは文珠山の山頂にあったとされ、山形初代城主・斯波兼頼公（最上氏の祖）が延文元（1356）年羽州探題として山形城に入部した後、中腹の現在地に移し、堂宇を再建したとされています。堂宇は、その後も正徳 3（1713）年に再建されています。

■大沼の浮島　弁天島（出島）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。しかも波を立てずに動く。出雲族東王家の**富家**の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福も連れてきた海童たち（秦族）も蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「弁天島（出島）」（写真）が起点となっている。

大沼浮島は、全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫（瀬織津姫）が祀られているのも本来はここの分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。

●役の小角は、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。と伝わっている。ということは、すでに信仰していた人々が住んでいたということ。小角は出雲族の安部族の聖地をつなぐ活動をしていたのではないだろうか。15 年前の住宅地図を開いて阿部さんがいるかを調べてみたら、残念ながら大沼には阿部さんは一人も見当たらない。しかし、大沼の鬼門に位置する隣の大暮山地区はほとんどが 27 世帯のうち 13 世帯は阿部姓である。さらに聞いた話ではその下流の大谷地区に住む阿部さんは大暮山地区から下りてきた人たちということで 7 世帯確認できた。役の小角は弟子覚道を住まわせたと伝わるので、大沼の最初の住人は覚道と言える。ということは、もしかしたら、元々は大暮山に住む出雲安倍一族が近くの大沼を信仰していたと言えるのではないか。そこに小角がやってきて、大沼にも集落ができた…。妄想は膨らむ。

■富神明神社

当神社はきれいなピラミッド型をしている「富神山」(標高４０２ｍ)の南麓に鎮座しており、「富神山（に宿る神)」を祀った神社と考えられている。昭和５２年に圃場整備事業に伴って行われた発掘調査によれば、当神社社殿を中心に半径２０～２４ｍの**環状列石**が発見された。そのほかに、石器や土器片なども出土しており、縄文時代後期頃の遺跡とされた。環状列石については、未発掘部分も多く詳細は不明ながら、土坑など埋葬の跡が発見されていないこともあり、祭祀施設と考えられている。なお、当神社の御神体は約１ｍの木造の男神像で、烏帽子や袍などを着用しており、１４世紀頃の作と推定されているという（非公開)。なお、「日本三代実録」貞観１３年（８７１年）条に「出羽国の利神に従五位下の神階を授与した」という記事があるが、一説に、その「利神（とのかみ)」が「富神山」の神であるという。(サイト　「神が宿るところ」より抜粋)

●富神山は出雲族富家の神奈備山だと思う。その祭祀場が富神明神社。そうとうに古い聖地とつながりがあってホッとした。それにしても山形にも環状列石（ストーンサークル）があったとは知らなかった。

■馬頭観音堂　詳細不明　上山市下生居８２８－２

■川口寺推定地→→33.383km→→ 大谷金輪寺跡 →→→ 33.383km→→ 龍雲院

■龍雲院

詳細不明　曹洞宗

県指定文化財の絹本著色釈迦十六善神図を所蔵。

この画幅は３幅１対で、中央に釈迦如来、左右の幅に十六善神・文殊・普賢両菩薩、常啼（じょうたい）菩薩と大迦葉、玄奘三蔵と深沙大将（じんじゃだいしょう）がそれぞれほぼ左右対称に描かれている。

中央幅の釈迦は、衲衣（のうえ）部に截金で卍字つなぎ、蓮華唐草・亀甲・麻の葉つなぎなどの文様をあらわし、手印は右施無畏（せむい）印、左与願（よがん）印の坐像で、釈尊の裳裾が、蓮華座の左右の端より長く垂下するところに特色がある。

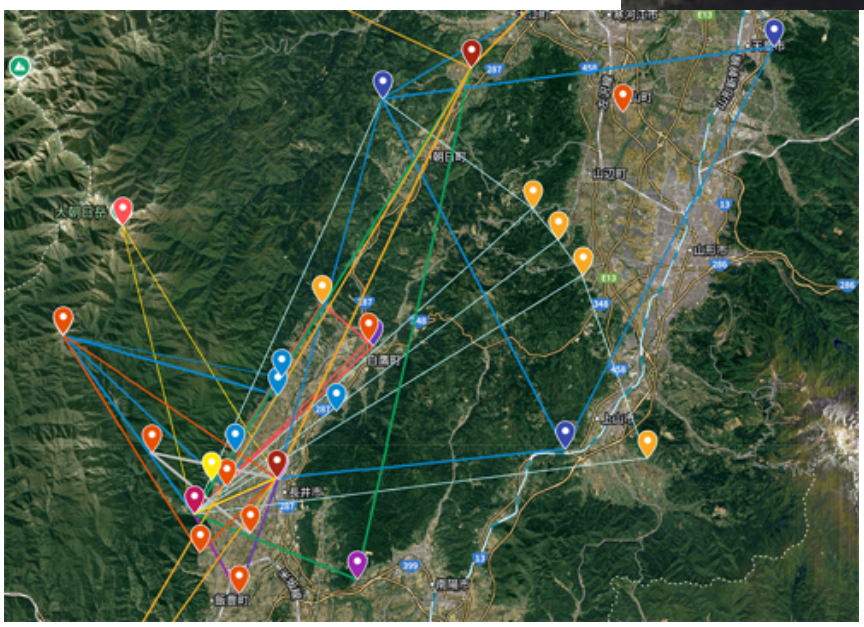
彩色も朱・緑青・群青・金泥などを用い、着衣・甲冑・武器・頭髪や髭まで丁寧、巧みに表現している。京の優れた絵仏師の手によるもので、**鎌倉後期の作と推定**されている。

南陽市竹原 655-1

●龍雲院の開基がいつかはわからないが、鎌倉時代の絵が遺されている。裏山は龍樹山というらしい。龍樹菩薩が祀られているのだろうか。大谷金輪寺は 1500 年頃まで存在していたので、龍神つながりがあったのかもしれない。

●由緒のわからない神社仏閣のつながりが多いのは、朝日岳信仰の衰退から 800 年近く経つからだろう。必要なくなった社寺はどんどん小さくなって忘れられてしまうのだと思う。

●川口寺跡推定値はこちらです。採石置き場になっていて、削り取られてしまったかもしれないけれど、ぜひ発掘調査していただきたいものです。



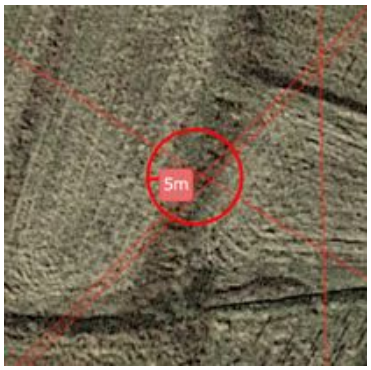
川口寺の祭祀線

岩上寺跡地

●川口寺跡地は簡単に見つかったが岩上寺跡地はなかなか見つけられずにいた。そこで、全祭祀線の円を描き直して三階の滝の下流域を捜索してみた。すると、長井の特産品のけん玉工場の近くに三つの線がクロスする場所がやっと見つかった。地形を見ると山裾であり、T 字路の突き当たり、参道らしきその道を下れば五所神社につながる。やはりここが唐沢口の川口寺跡地で違いない。ここから祭祀線を調べてみた。

祝瓶山　●岩上寺の岩上は祝瓶である。まずは祝瓶山から調べてみた。

■祝瓶山　山頂三角点→→4.165km→→岩上寺跡地←←←4.165m←←巨四王神社



■祝瓶山（いわいがめやま）

祝瓶山は朝日山地の主峰・大朝日岳から南南西に伸びる山稜の上に位置している。標高は 1500m にも満たないが、岩陵が発達する極めて峻険な山容を示す。このことから、俗に東北のマッターホルンとも呼ばれる。祝瓶山の北稜部が磐梯朝日国立公園の出羽三山・朝日地域に含まれている。なお、祝瓶山は、地質学的には朝日山地のほかの山と同様に花崗岩を中心とした深成岩からなる山である。

※祝瓶山の祭祀線については別頁「道真公の無念を晴らす朝日嶽修験 祝瓶山」をぜひご参照ください。

■巨四王神社

大正 12 年に建立された合祀記念碑によると、明治 44 年に川原沢地内の蛇附巨四王・諏訪・熊野・皇大山・稲荷各神社を合祀したと伝えています。この中で巨四王権現と蛇附明神の創建は古いとされています。また、平成 15 年に境内を拡張、社殿・拝殿・庫裏・社務所を建て鳥居を建立、社道を開きました。山形県長井市川原沢 575－1 ※サイトやまがたへの旅より抜粋

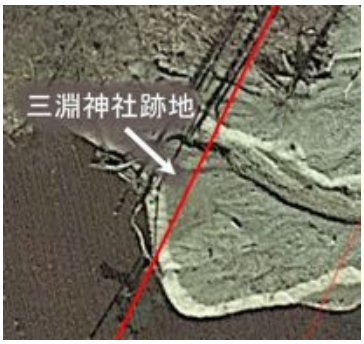
＊巨四王神社は、『平成の祭』に記載があります。それによると「神社名：巨四王神社〈振仮名こしおうじんじゃ〉、祭神：（主）大己貴命、建御名方命、大山祇神、鎮座地：長井市大字川原沢字巨四王森１３５７-１」とあります。

＊『山形県神社誌』によると、神社名と鎮座地は『平成の祭』と同じですが、「祭神：大己貴神〈振仮名おおなもちのかみ〉 外五柱」とあり、「由緒：大正十二年に建てられた合祀記念碑があるが、それによると、明治四十四年に川原沢内の蛇附、巨四王、諏訪、熊野、皇大山、稲荷神社を合祀している。この中で、巨四王権現と蛇附明神の創建は古く、巨四王神社は文安二年五月創建と伝えるが由緒は詳かでない。この年に境内を拡張して神殿、拝殿、神庫、社務所を建て、鳥居を建立し社道を開いた。合祀前の明治三年に村社となり、大正七年神饌幣白料供進神社に指定された。」とあります。

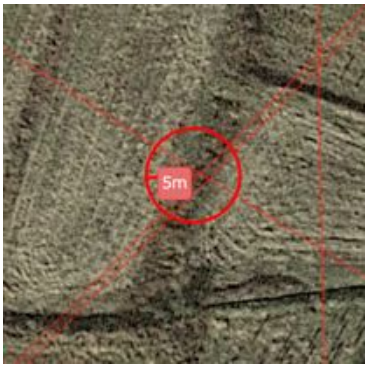
＊山形県神社庁のウエブサイトにある山形県内の神社のデータベース「山形の神社」の「巨四王神社」によれば、大己貴神以外の「外五柱」は、倭姫命、天御中主命、建御名方命、櫛御氣野命、大山祇神になるようです。※サイト古四王神社探訪記録より抜粋

●長い石段が幅 2 間もあり驚いた。敷地にはさまざまな神々が祀られていたような跡がありとても広かった。巨四王権現と蛇附明神、諏訪、熊野と出雲系の神々が合祀されている。巨四王権現は越の王で天孫に大和を追われた長髄彦の新しい出雲王国の地であり、子孫たち安部一族が北に追われるごとに建てた神社なのではないだろうか。秋田の古四王神社は安部氏の祖神とされ、坂上田村麻呂が 802 年に戦勝祈願をしている。そして蛇附明神は、まさに竜蛇信仰の出雲族。考えてみると長井市もナーガ（竜蛇）と呼べる。

総宮神社



■総宮神社→→4.165km→→岩上寺跡地←←←4.165m←←八雲神社
岩上寺跡地←←←4.165m←←三淵神社跡



■總宮神社（そうみやじんじゃ）

創建は延暦 21 年（802 年）、**坂上田村麻呂が東征の際に赤崩山白鳥大明神を祀った**のが始まりとされる。
康平 6 年（1063 年）に源頼義が社殿再建、文禄 2 年（1593 年）に蒲生氏郷・蒲生郷安によって長井郷 44 ヶ村の神社が合祀され、「總宮」と称されるようになった。また、直江兼続が参拝の際に手植えしたとされる 9 本の大杉と、奉献した刀剣が今も残っている。
祭神　日本武尊　　合殿　大己貴命　天児屋根命　倉稲魂命　　山形県長井市横町 14-24

■三淵神社跡地

總宮神社の奥の院。ダムに沈むために近くの高台に移された。
今から約 1000 年前、安倍貞任・宗任兄弟を討つため源頼義とその長男の義家（八幡太郎義家）が東北地方に攻め入りました。貞任は、娘である「卯の花姫」と一族を送り、長井を守らせました。
　しかし、卯の花姫は敵である義家に恋をしていました。義家は、貞任・宗任を手強い相手と知り、ひそかに卯の花姫にたくさんの手

紙を送りました。手紙には、貞任が降伏すれば貞任の身の安全を保障することや戦の後に結婚を約束することが書かれていました。卯の花姫は戦を早く終わらせたい思いから、義家に貞任の戦略を漏らしてしまいます。しかし、これは戦略を聞き出すための義家の作戦だったのです。戦略を聞き出すことに成功した義家は、各地での戦で勝利を収め、ついに貞任を戦死に追い込みました。そして、貞任の戦死後、義家からの手紙はぷっつりと切れてしまいました。

貞任の戦死の知らせを聞いた姫は、義家に騙されたことに気付き「父を殺したのは私だった」と涙を流し大いに嘆きました。悲しみも束の間、義家軍は長井郷へと攻め込んできました。安部軍は大軍にこらえかね、朝日岩上の僧侶達を頼るしかないと、姫は三淵を訪れ、神に祈りを捧げました。しかし、義家の大軍に取り囲まれたことを知ると「もはやこれまで…」と数十丈の岩の絶壁から三淵へ身を投げました。すると卯の花姫は龍神となり、三淵の水神様となりました。

総宮神社の奥の院である三淵の主は竜神で、9月の例大祭の際には奥の院の竜神が野川の水に乗って神社へ下ると伝えられており、黒獅子はその化身だといわれています。

●總宮神社の宮司さんのブログ「ぐうじののほほん」で三淵神社に参拝に行く様子が写真で紹介されていた。その中で、「ダムに沈む前の三淵神社は立ち枯れした杉の木の所にあった」と説明してある。よく見ると沢が入り込んでいる所だったので、グーグルの写真地図と照らし合わせて場所を特定した。

●地図を見ると、野川は祝瓶山から流れる本流に支流が三淵神社跡で合流し、川口寺まで急な山を流れ下り、里に降りるとまっすぐに総宮神社に向かって流れている。その激流は暴れ黒獅子に喩えられているが、それを抑え止めるような位置に総宮神社は位置するのがわかる。

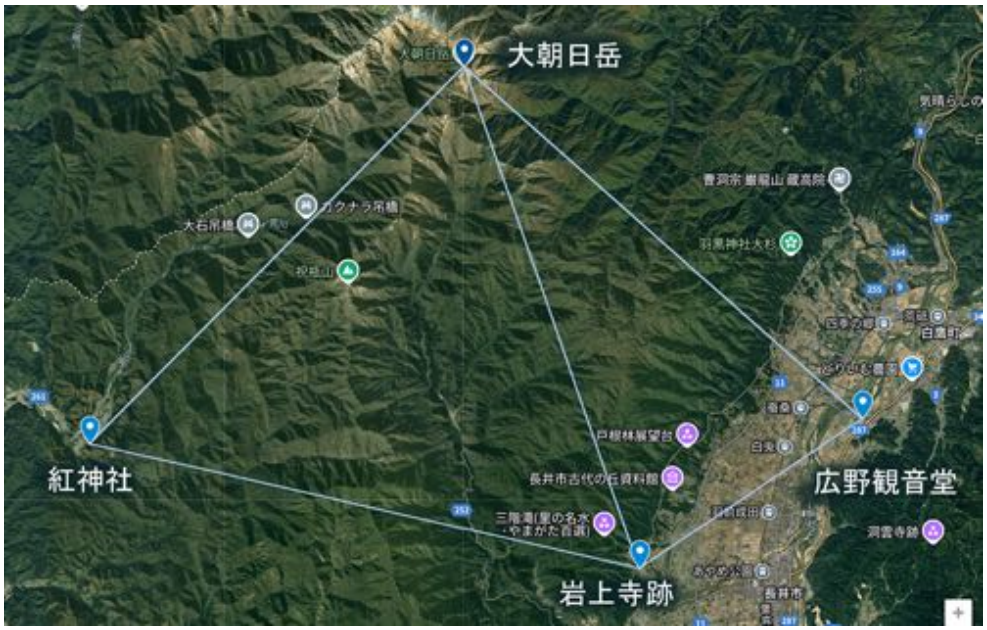
●総宮神社と奥の院の三淵神社の同距離に岩上寺は造られている。総宮神社は岩上寺が造ったと考えられる。一つ謎が解けた。
前九年の役（源義家と、安倍貞任の兵乱）により朝日、岩上の霊地は衰退の一途をたどったとあるが、戦いは遠い岩手県。すでに山形県（出羽国）は朝廷に平定されていた時代。こちらにまで影響は及んだのだろうか疑問だった。ただ、朝日岳は出雲族にとって最大聖地。安倍家の子孫たちが山伏となり蝦夷のための祭祀をしていたとは考えられる。それをやめさせるために義家は朝日岳信仰を抑えることをしたのかもしれない…。などと妄想していた。
実は総宮神社の宮司さんのお名前は「安部」さん。蝦夷に寛容だったとされる坂上田村麻呂は山形に残る安倍家に総宮神社を任せたのではないか。宮司の安部氏は安倍家の血筋に違いない。

■八雲神社

神社の創立は大治3年（1128）、京都八坂神社より御分霊を勧請し建立。元禄2年と天明3年に社殿を改築。ご神体はこのあたりの神社では珍しい600年前の宥日上人の作と伝えられる牛頭天王です。昔は疱瘡の神として信仰が篤く、健康と交通安全の神様としてすい崇敬されています。
※サイトようこそながいより抜粋　　長井市久野本484付近

●訪ねてみると八雲神社は正福寺の敷地内にあった。正福寺の開山は大同2年（807）と古い。本尊は愛染明王。

大朝日岳

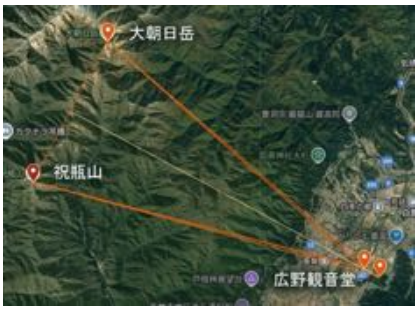


■岩上寺跡地 →→ 17.183km →→ 大朝日岳 ←←← 17.183m ←← 広野観音堂
大朝日岳 ←←← 17.183m ←← 紅神社

■広野観音堂

置賜三十三観音 第 22 番 （真言宗）観音堂の建立は宝永 2 年。寛永 5 年に開村された広野村の信仰の中心として建立されたと伝えられる。本尊は聖観世音菩薩立像。米沢の法音寺から寄進されたもので、長楽寺に仮安置したところ同寺の本尊である聖観音とケンカをして右腕に包帯をしているという噂が立った。現在も手の病に御利益があるとされている。創建：1705 年（宝永 2 年）白鷹町広野 2676

●広野観音は創建 1705 年と新しいが、重要ポイントの大朝日岳と祝瓶山の間にある。北条執権時頼による朝日岳信仰のお取り潰しになった宮跡になにか小祠が残されていて、その場所に 500 年後に観音堂を置いたのではないだろうか。



■大朝日岳→17.184km→ **広野観音堂** →→ 17.184km→→ 祝瓶山

●後方東側の独立した山もピラミッドぽい。西裾には小山も二つ。こういう山には必ずなにかしらの神様が祀られているはず。国土地理院の地図で山頂部を確かめてラインを伸ばすとうまくつながった。近くの立岩七星両神社と諏訪神社にラインを伸ばすとちょうど山頂部を横切る。その山頂部が大朝日岳・祝瓶山の同距離となる。自然の山のみで二等辺三角形が構成される。益々この山は、造られたピラミッドと思ってしまう。

■大朝日岳→→　18.047km→→ **山頂（名前不明）** →→→ 18.047km　→→ 祝瓶山

●白鷹・長井地区からは西側に葉山があるために直接朝日岳は見えない。きっとこの山の頂上からは見えていて、ここに大朝日岳と祝瓶山を遥拝する祭祀場があったのではないだろうか。そして広野観音堂の場所には里の宮があったということではないだろうか。お堂は大朝日岳・祝瓶山に向いて建てられており、後方にその山を背負っている。地元の方に聞き込みをしようと思っている。

●地形地図を見ると頂上が 300m。周りに 250m 位の小山が五つある。実に不思議な山に思える

東野八幡宮

■岩上寺跡 →→ 6.262kmkm →→ 東野八幡宮 ←←← 6.262km ←← 立岩七星両神社

■東野八幡神社

延歴年間(782 年から 806 年)の創建と伝えられ源氏の氏神とされた鎌倉の鶴岡八幡宮の御分霊を勧請する。

置賜百弐拾壱々村総鎮守『東野八幡宮』と称えられ
時の武将を始め、広く置賜一円の信仰を集める。特に伊達氏は厚く崇敬し松川の対岸に伊達家の菩提寺『資福寺』を設け毎朝菩提寺に参り、松川を船で渡り『東野八幡宮』へ参拝したという。
平安時代後期。高倉天皇の時代、神事の湯釜の銘には「嘉応弐年四月三日津島村」とあり、創建当初は現在の鎮座地より東方へ約 500 mの場所にあったらしい。近くを流れる松川の度重なる水害によ

り、室町時代の後期、天文 23 年（1554）『伊達家十五代晴宗公』(伊達政宗公の祖父)の家臣、『湯目肥前守宗厚』(湯目景康・後の津田豊前景康)により現在の地に遷座する。彼の地には当時を物語る県一を誇る『薬師観音』と察せられる大石塔がある。また、願文付きでは県内最古の鎌倉時代中期、『文永五年十一月十三日』の銘がある。
※猫武将・虎之助虎太郎武録より抜粋　　山形県東置賜郡川西町洲島２１３５－１

■立岩七星両神社
小山沢七星は同所に立岩神社があり、合祀して立岩七星神社と呼ばれていて、地図を見ると七星神社から南の山に位置している。立岩神社は「金山比古命（かねやまひこのみこと）金山姫命 倉稲魂命」を祀っていることから近くに鉱山があったのだろう。柳沢の八雲神社も同じ様に鉱物資源で繁栄した時代もあり、垂れ耳の黒獅子は上杉藩時代に米沢の彫り師に作らせ奉納されたのだろうか? 総代宅には古文書などは一切残されていない様で残念だが謂れは分からない。※サイト獅子宿燻亭より抜粋

●置賜総鎮守の東野八幡宮なので期待したが由緒を読むと 1554 年に遷座されている。なくなったはずの岩上寺となぜ繋がるのか?不思議だ。そしてもう一つの不思議は前述の広野観音堂の裏山に関わる立岩七星両神社と繋がった。妙見信仰だと思われるこの神社は、藤原実方が落馬して亡くなった宮城県名取市の笠道祖神社と大沼浮島の弁天島とも繋がる。やはり、大朝日岳・祝瓶山の同距離にあるこの山はなにか大切な祭祀場だったに違いない。

川口寺跡

■五所神社由緒
天武天皇の治世、白鳳 8 年（7 世紀末)、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に**役行者が参籠修行し開山**したという。その後、聖武天皇の治世、天平 3 年（731 年)、川口寺が建立され、宝亀 5 年（774 年）桑沢口に岩上寺が建立され繁栄し、その繁栄は約 400 年続いた。天喜年間（1053 年 - 1058 年)、前九年の役（源義家と、安倍貞任の兵乱）により朝日、岩上の霊地は衰退の一途をたどっていた。

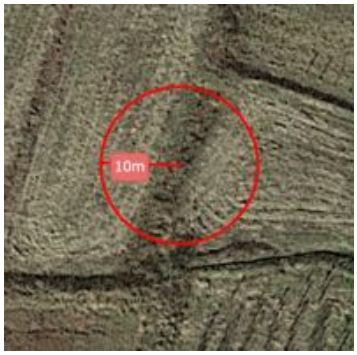
■川口寺跡 →→ 17.183km →→ 岩上寺跡 ←←← 17.183m ←← 天神寺

■**天神寺**　真言宗豊山派　詳細不明　　長井市平山１５７９－１

●天神寺の詳細は不明だが、朝日岳信仰の拠点の朝日町大谷地区には菅原道真公の側室一統が移り住んで関わっているので有りでは。

遍照寺

■遍照寺 →→ 4.241km →→ 岩上寺跡 ←←← 4.241km ←← 九野本観音寺



■金剛山遍照寺

8 世紀中頃に**行基菩薩が開いた**と伝えられています。文治の乱（1189 年）の時、中尊寺の祥乗が戦乱をさけて遍照寺に入ったといい、「奥の高野」とも呼ばれた古刹です。永享年中（1492 年～）、名僧宥日上人が盛りたて、中興開山といわれています。江戸時代に入ってからも、日瑜・宥諦・諦真・宥謙らが地域の発展に力を尽くし、明治初めには 38 の末寺をかかえる大寺院であり、そして現在も置賜地方を代表する名刹です。※金剛山遍照寺公式サイトより

西置賜郡飯豊町中１９５６

■九野本観音堂

九野本観音の**創建は寛文８年**（１６６８）、当地の実力者だった梅津萬右衛門により開かれたのが始まりとされます。本尊の十一面観世音菩薩像は像高３５ｃｍ、伝教大師最澄が自ら彫刻したものと伝えられています。　本尊：十一面観世音菩薩　長井市九野本２０４７

※サイト山形県の町並みと歴史建築より抜粋

●九野本観音寺（観音堂）は総宮神社と三淵神社とも繋がる。1668 年創建なのにどうして岩上寺とつながるのだろう。今回は観音堂ではなくお隣のお寺本堂（写真右側）につながったので、お寺そのものは古いのだろうか。

葉山神社

■葉山神社 →→ 6.262kmkm →→ 岩上寺跡 ←←← 6.262km ←← 羽黒神社
岩上寺跡 ←←← 6.262km ←← 稲荷神社（高伝寺）

■葉山神社

明徳 4 年（1393 年）丹後国（京都の南西）の恵法津師という偉い和尚さんが、羽黒山に詣でるために五十川の四ツ家（現袋稲荷神社付近）まできたときに、紫の雲が森の上にたなびいているのを見て不思議に思い、森の中の池をさがすと、澄んだ水の池に金波がたち、岸には良い匂いの草が生えているので、その池に入ると泥にも染まらず衣もぬれずに一体の仏像が見つかりました。この仏像は、閻浮檀金(砂金でできた仏像)の薬師如来でした。この仏像を捧げて、白狐と白兎に導かれて西山に登り、平坦な土地(今の葉山平)と農園(御代)があったので、そこにお社を建てて祀ったといわれています。

※サイト致芳ふるさとめぐりより抜粋

長井市白兎 字蔵京 2269

■羽黒神社

建武 2 年（1335）の創建と伝えられています。昭和 35 年までは黒獅子が最上川を渡り、勇壮華麗でした。昭和 36 年に雪害により現在の場所に移転し、昭和 52 年に改築されました。御神体「こも包み観音像」は、「みのわ」から拾い上げて祀っています。長井市泉 381　※サイトやまがたへの旅より抜粋

■稲荷神社（高伝寺）　詳細不明

●稲荷神社の由緒がわからないが他は岩上寺がなくなってからの創建。もしかしたら岩上寺は修験活動はやめたものの、寺そのものは江戸時代中期頃まではあったのではないだろうか…。

●さっそく岩上寺跡を訪ねてみた。けん玉工場（有限会社 山形工房）さんを入れた写真を撮り忘れたので Google マップから拝借。岩上寺跡はここです↓。

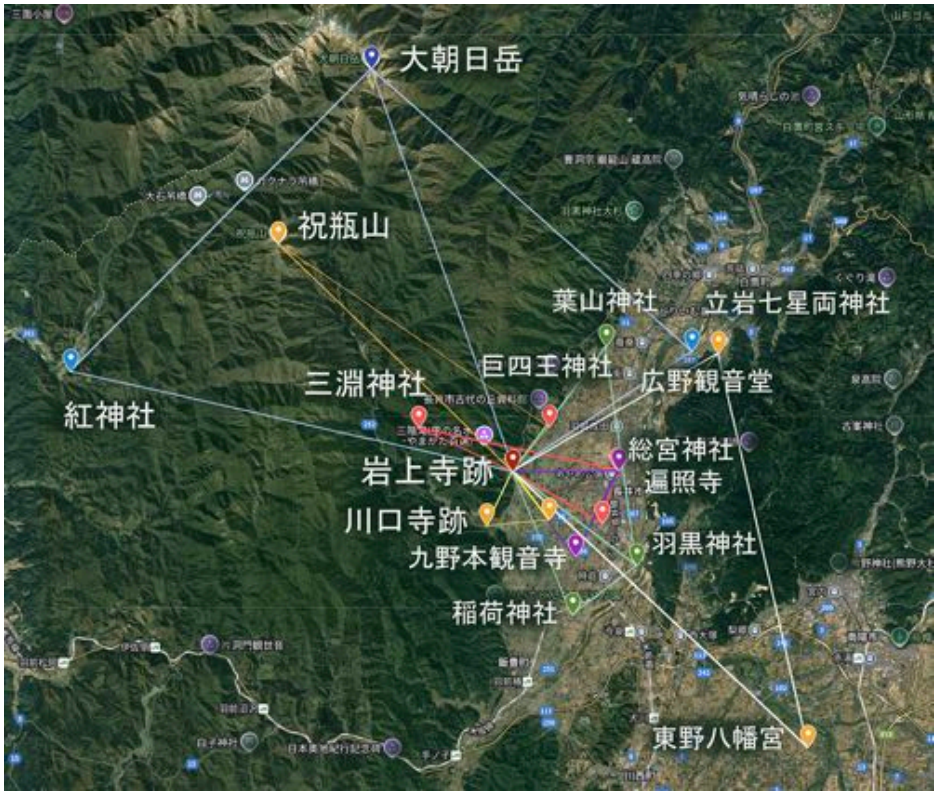
一段高くなっているこのあたり

参道だろうか　跡地の後ろには小山がある

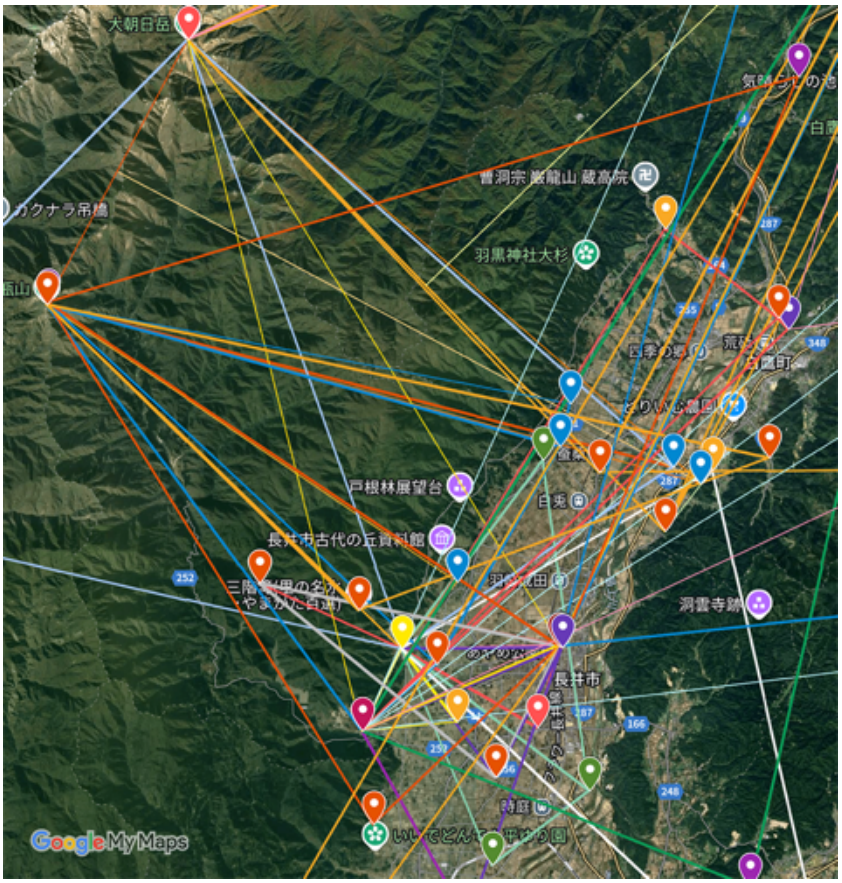
跡地から五所神社からの道が見える

●ワクワクしながら跡地の水田跡に入らせていただいた。跡地の後ろには小さいけれど堂々とした山がある。農道が山道に見えて、その山の下に岩上寺を想像できた。最適なシチュエーションに思った。小沢も流れているので生活用水も確保されている。小高い位置なので参道を人が歩いてくるのも見渡せる。気になったのは、隣接する大規模な採石場が近くまで迫ってきている。周辺を含めた発掘調査のためにもこれ以上南側に広がらないことを祈っている。

（2025.7.5 記　竜天太陽）



岩上寺の祭祀線



長井市・白鷹町の全祭祀線